

静岡県立小山高等学校創立四十周年記念式典

式 辞

長く暑い夏も終わり、徐々に過ごしやすい日々となってまいりました。

本日、この佳き日に小山町長 込山正秀様はじめ多くのご来賓の皆様方のご臨席をいただき、かくも盛大に静岡県立小山高等学校創立四十周年記念式典を挙げていただけますことは、このうえない喜びであります。同窓生一同を代表いたしまして心より御礼を申し上げます。本校は、昭和六十年四月、豊かな自然に恵まれ、万葉の時代から歴史に大きな足跡を残した先人達の文化を伝える小山町足柄の地に創立され、第一期生、全日制237名、定時制33名が入学され、静岡県立小山高等学校としての歩みをはじめました。以来四十年、校訓「自尊」のもと学び、巣立った卒業生は8685名に及び、各方面で素晴らしい活躍をされておられます。私たちは夢と希望に満ち、活力みなぎる若い時代に「自尊」の校訓を胸に、「文武両道」の精神で勉学にも部活動にも一生懸命励む大切さ、喜びを学びました。私は今、このかけがえのない経験が、実社会においていかに大切な糧となっているかを、実感しています。

さて、創立四十周年の節目にあたり、本校の校訓「自尊」が意味するものを、改めて皆さんとともに考えてみたいと思います。「自尊」を辞書で調べますと、「自分の人格を尊重し誇りを持ち、品格を保つこと」とありますがそれは具体的にはどのような考えや、行動を示すのでしょうか？私なりに調べてみたところ自分自身と同様に他者をも思いやり、全ての人に対する温かい眼差しを持つこと。また、広い知識を持ち、研鑽を積み重ねて自らの品性を高め、他の人の模範となるような行動を示すこと、ではないでしょうか。自分自身に対し、恥ずかしくない自分であり続けるというのは、実はとても強い意志と努力が必要であることは、言うまでもありません。私達の校訓「自尊」は、長い人生を歩む上で最も大切な何かを、今でも示してくれているように思います。一方、昨今の社会情勢を見ますと、国際化・情報化・少子高齢化が急速な勢いで進展して、社会構造そのものも大きく変化し、ますます将来の予測が困難な時代となってきました。それ故に、いかなる変化にも対応できる逞しさが必要であり、創立時に初代校長、高杉隆三先生が提唱されました教育目標「いかなる時代にもたくましく生き抜ける人間の育成」は、四十年経た今日、ますます重みを加えてきております。ゆえに、昭和・平成・令和と激動の時代を駆け抜けている私たちは、「自尊の心」と「たくましく生き抜く人間力」でこれからも各々の分野・地域で大きく飛躍していくことを誓い合いたいと思います。さて、在校生の皆さん、これからの小山高校を背負って立つ主役は間違いなく君たちです。どうか、本日の式典に生徒として出席できることを喜び、誇りとして一人ひとりが自分の目的意識を再確認する中で「一歩前進」する決意を新たにして欲しいと思います。本日の晴れやかで記念すべき日を迎えるに当たりまして、今日まで本校を導いて下さいました歴代の校長先生を始めとする教職員の皆様や地域の方々の暖かな眼差しとご支援、そして輝かしい業績を残され伝統を築き上げてこられた卒業生の皆様のご努力や保護者の皆様のご尽力に、深く感謝申し上げます。

本日を一つの節目とし、これからも私たちの母校が、次の時代に向けて新たな歴史を築き、さらなる発展を遂げていくことを願っています。

最後になりましたが、本日、盛大な記念式典を挙げるできましたことに、改めて御礼申し上げますとともに、本校の益々の発展のため、今後とも尚一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

令和六年十月二十三日

静岡県立小山高等学校

同窓会長 鈴木新一